

既存施設の現状（朋有小学校）

資料3

■朋有小学校

○現在の朋有小学校は、旧時習小学校・旧大塚台小学校が統合し、平成15年に開校しました。インターナショナルセーフスクール（ISS）認証校の経験も活かして、現在はコミュニティスクールとして、地域と共に歩む学校づくりを進めています。

①教育ビジョン

にっこり あいさつ
はっきり すてきなことば
やる気いっぱい 心ひとつに

②特色ある教育活動

- ・コミュニティ・スクールとして、地域の施設や人材と連携した教育活動を進めています。サンシャインシティやイケ・サンパーク、総合体育場のほか、豊かな自然が学校の周りに豊富にあります。
- ・図書館の環境整備や図書委員会発案の読書啓発活動を通し、読書に親しむ習慣を培っています。
- ・留学生との交流や各教科での教育活動の充実を図り、多国籍で多様な文化の体験的な理解を進めています。
- ・特別支援教育・日本語指導教室では、個々の状況や課題に応じたきめ細かい支援を進めています。
- ・また、進学先の西巣鴨中学校や、同じブロックにある巣鴨小学校、近隣の保育園との連携活動も盛んです。

3年：ヤゴ救出大作戦
I loveとしま
地域安全マップを作ろう 他
4年：都道府県を調べよう
今やろう 防災アクション
SDGsプロジェクト 他
5年：稲を育てよう
富士五湖の自然環境
安心・安全の学校を目指して
他
6年：日光探検隊
世界の子供に目を向けて
職業調べ
卒業プロジェクト 他



2年 食育 どうもこしの皮むき



3年 ヤゴ救出大作戦



4年 サンシャインシティ防災訓練



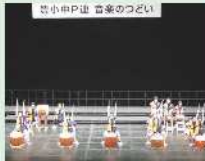
5年 田植え・稲刈り



6年 イケ・サンパークごみ拾い



竹の子学級 まとめ展



朋有太鼓（音楽のつどい）

④敷地情報

敷地面積	7,425㎡
延床面積	5,462㎡
校庭面積	2,621㎡
生徒数	602（30）※（）内は特別支援学級人数
クラス数	19+4 ※普通学級+特別支援学級

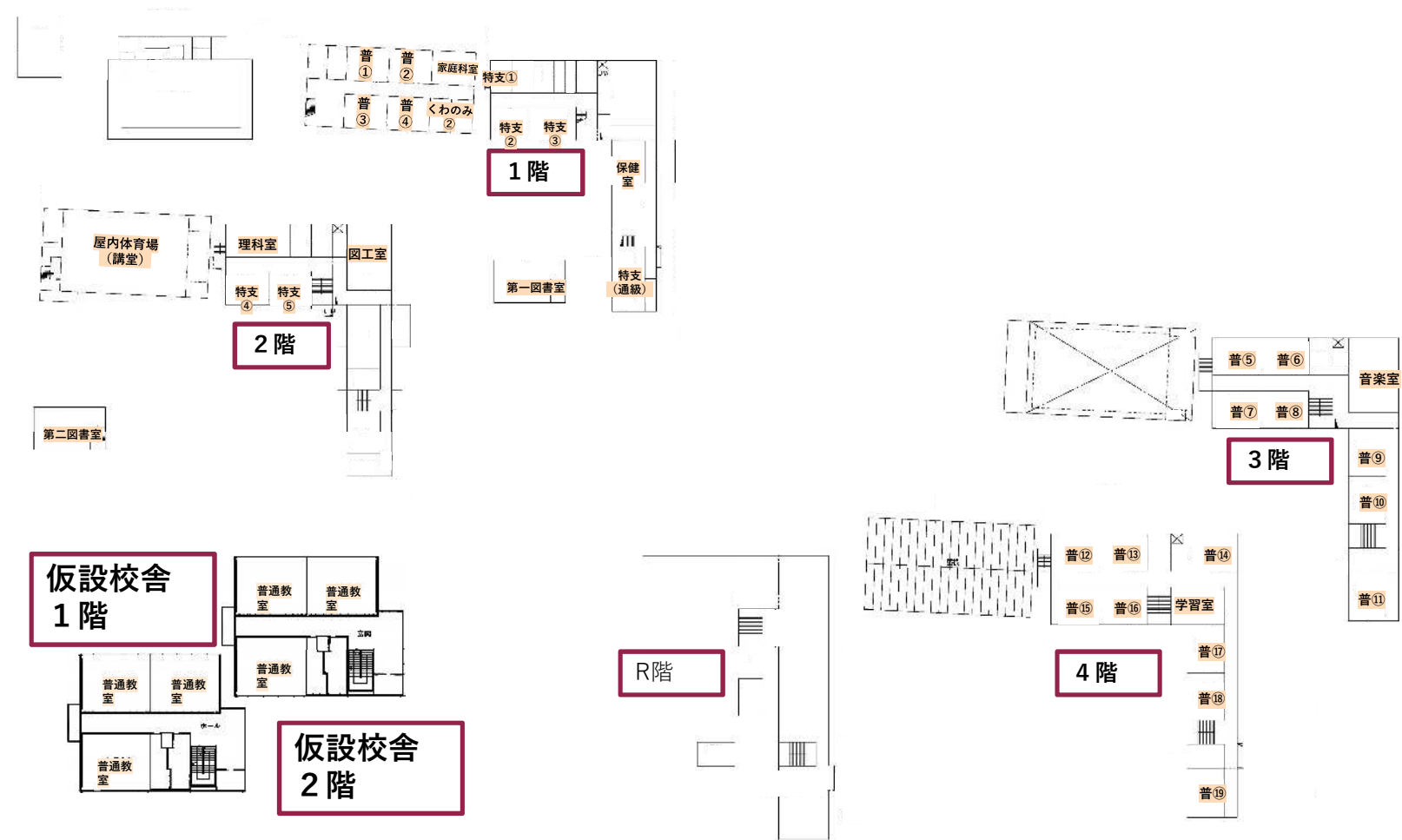
敷地面積・延床面積・校庭面積は、豊島区の教育2024（令和6年度豊島区教育委員会発行）から引用

生徒数・クラス数は、学校案内（令和7年6月豊島区教育委員会発行）から引用

⑤学校長へのインタビュー（2025年6月6日）

- 開校時（H15/2003年）は380人だった児童数は、現在602人に。現在も生徒数は増え続けており、2025年9月には2階建て仮設校舎（6教室分）が供用開始予定。
- 大きい体育館の可能性。防災拠点・地域交流拠点としても期待したい。小学校の雨天時運動会会場としても利用出来れば大変ありがたい。
- 特別支援学級の円滑な接続にも期待したい。小中学校合同で特別支援の発表を行うなど、9年を通した学びの実現も可能になる。また、朋有小学校はくわのみ学級にて、学習指導や生活指導、情緒的なサポート体制も設置している。
- ★100年の歴史があった時習小学校が大塚台小学校と統合される際に、朋有太鼓が受け継がれた。学校校歌にもあるように、2校の想い出を礎に、「楽しいみんなの広場」づくりに励んでいる。
- ★食育教育にもしっかり取り組みたい。以前は、学校敷地内の田んぼで田植えや稲刈り体験を行っていたが、撤去したため、現在は川越市まで社会科見学として行っている。不登校支援にも有効な取組み。自然との触れ合いに対する保護者需要も高い。

既存施設の現状（朋有小学校）



※仮設校舎は
令和7年9月～供用開始

既存施設の現状（巣鴨小学校）

■巣鴨小学校

○巣鴨小学校は大正8年に、東京府北豊島郡巣鴨仰高西尋常小学校として開校し、昭和22年に新校舎を建築の際、巣鴨小学校と校名変更して開校しました。

①教育レミジョン



確かな学力と豊かな心、健やかな体が育つ学校～向学の気風が漂う学校～を目指し、教師と児童、児童相互の信頼関係の確立を基盤とする教育活動

- 確かな学力の定着と豊かな個性を伸長する教育の推進（へんきようがすき）
- 人権教育と豊かな心を育む教育の推進（友だちがすき）
- 健やかな体の育成と健康教育の推進（うんどうがすき）

共感的な人間関係の育成、支持的風土の確立		自主的・自律的で主体的な児童の育成	
挨拶運動 学期に1回ずつ、全学年が交代で、校門で挨拶運動を行います。	巣鴨会議 全学年児童が一堂に会し、もっと仲良くなる取組として、縦割り給食を立案しました。	巣鴨っ子ツアーをしよう 地元企業の方から大塚の魅力を教えていただき、自分たちでもツアーを企画します。	起業家教育 擬似的な会社経営を行い、商品の企画・開発・製造・販売を行います。
保幼小・小小・小中連携		地域連携	
校庭開放と交流会 週1回、保育園に校庭を開放しています。1年生が年長さんを招待して、学校を紹介したり、遊んだりします。	朋有小学校との連携 西巣鴨中学校区の朋有小学校と同じ日程で、移動教室に行きます。同じ中学校に進学する者同士仲良くなります。	西巣鴨中学校との連携 西中を知る会で、6年生が中学校体験をします。年3回、一・中二の教員が集まって、授業参観と協議をします。	東京大塚阿波おどり 大塚の夏と言えば、東京大塚阿波おどり！令和6年度は、PTAの巣鴨っ子連に95名が参加しました。

④敷地情報

敷地面積	6,793m ²
延床面積	5,291m ²
校庭面積	1,434m ²
生徒数	358
クラス数	12

敷地面積・延床面積・校庭面積は、豊島区の教育2024（令和6年度豊島区教育委員会発行）から引用

生徒数・クラス数は、学校案内（令和7年6月豊島区教育委員会発行）から引用

⑤学校長へのインタビュー（2025年6月6日）

- 巣鴨っ子連での東京大塚阿波踊りへの参加：毎年夏に開催される「東京大塚阿波踊り」に「巣鴨っ子連」として児童が参加。卒業生や保護者・地域の方の協力を得て伝統ある取組をしており、約20年近い活動の歴史がある。
- 巣鴨っ子ツアー：現在の小学3年生が、大塚にある「OMO5東京大塚by星野リゾート」の街案内ツアーを体感し、その後生徒たち自身でも「巣鴨の町の魅力」を盛り込んだツアーを企画し、保護者を案内する活動。
- 巣鴨会議：全校生徒が集まって、学年を越えた縦割り活動で会議する場。2月には、コロナ前までは実施されていた「縦割り活動での給食タイム」についても、「卒業する6年生たちと一緒に皆で給食を食べたい」という生徒たちの想いで復活した。

★小・中連携の取組み：6月10日(火)に実施した「西中を知る会」

★小・小連携の取組み：6月16日(月)～18日(水)で、朋有小学校と合同で開催した「日光移動教室」

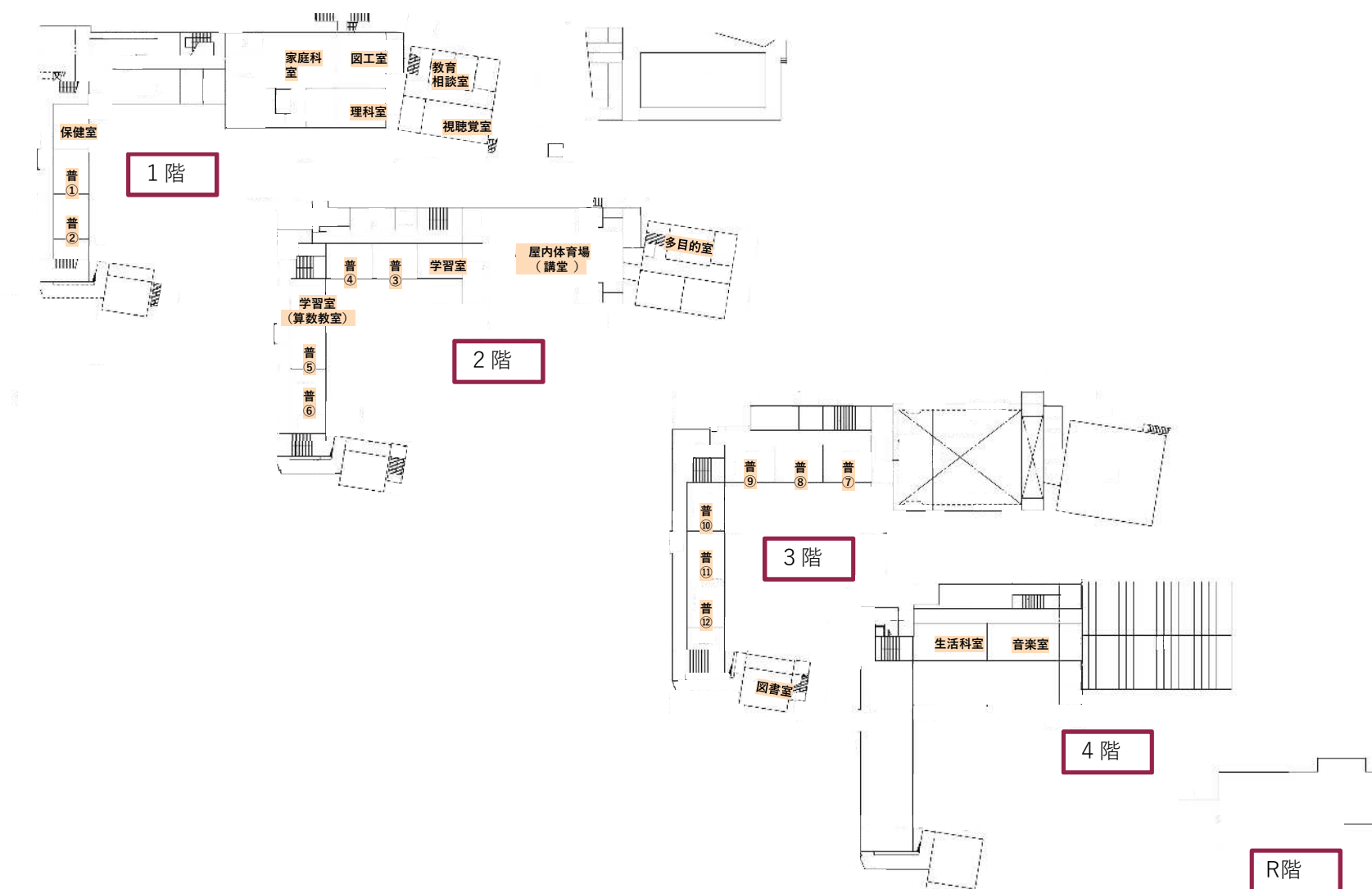
6月10日開催「西中を知る会」



6月16日～18日開催「日光移動教室」



既存施設の現状（巣鴨小学校）



既存施設の現状（西巢鴨中学校）

■西巢鴨中学校

○開校76周年の、区内でも歴史と伝統のある中学校です。巢鴨小学校と朋小小学校の子どもたちが進学します。

①教育ビジョン

- 自ら学ぶ人になろう
- 思いやりのある人になろう
- 社会に貢献する人になろう

②特色ある教育活動

- ・SDGs学習や西巢鴨中バラ見守り隊等の活動を通して地域への理解や地域とのつながりを深め、学校・地域・保護者が一体となったシティズンシップ教育を充実させる。
- ・小・中学校の円滑な接続を目指して、系統性・連続性を踏まえ自己指導能力を育成する。
- ・道徳、総合、特別活動など、様々な場面で通常学級と固定学級の生徒が共に学習する機会を設け、インクルーシブ教育を充実させる。
- ・基礎学力の定着を図るために、数学・英語で習熟度別少人数授業を展開する。
- ・心理テストの活用、教育相談の充実により、いじめのない学校づくりに取り組む。
- ・自己を見つめるキャリア教育を推進する。



西巢鴨中学校～南大塚発 SDGs 花のまちづくりへ～

<9月に講演会を開催>

人と人との交流が広がり、「もっと魅力のある街にしていきたい」という地域の方々の未来への熱い思いを知りました。

<7月、2月>

バラ見守り隊によるバラロード清掃をしました。

<9月>近隣小学校と共に清掃活動を実施しました。

バラ見守り隊の取組を保護者、地域の方々に学校だより、学校掲示板、ホームページで発信しました。



本校の部活動（令和7年度）

※4月現在

<運動部>

サッカー(男女)
バスケットボール(男女)
バドミントン(男女)
ソフトテニス(女)
野球(男女)
バレーボール(女)

<文化部>

吹奏楽
美術
4組クラブ

④敷地情報

敷地面積	7,566㎡
延床面積	6,657㎡
校庭面積	2,511㎡
生徒数	228（17）※（）内は特別支援学級人数
クラス数	6+3 ※普通学級+特別支援学級

敷地面積・延床面積・校庭面積は、豊島区の教育2024（令和6年度豊島区教育委員会発行）から引用

生徒数・クラス数は、学校案内（令和7年6月豊島区教育委員会発行）から引用

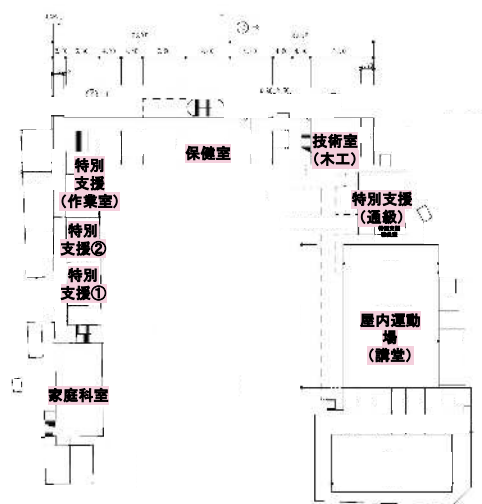
⑤学校長へのインタビュー（2025年6月2日）

- 地域活動として、体育館で「社会を明るくする運動」の集会や交流の場として利用されている。これには地域の小学生や中学生が参加し、講演やゲーム、縁日的な活動が行われている。
- 作品展示や発表会などの機会に利用できるスペース（階段状スペースなど）や、簡単に掲示ができる設備（ピクチャーレールなど）があると便利。
- 現状の課題として、プールの利用が限られている状況がある。屋外プールのため、暑さ対策や衛生面（ヤゴの発生など）から利用期間が短くなっている。
- スポーツ施設との一体化により、プールの屋内化・温水化が実現すれば、年間を通して利用できるようになり、熱中症の心配なく授業を行ったり、地域住民も利用したりすることが可能になるなど期待が大きい。
- 新しい施設では、多様な利用者（特別支援教育が必要な子どもたち、外国籍の子どもたちを含む）が安全に安心して利用できるような配慮が重要。最近の祈りのプレイルームや和室の需要などが出てきている。

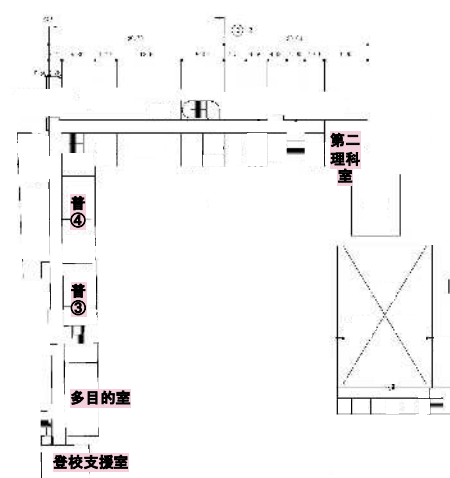
★学校独自の特色ある活動として、「バラ見守り隊」の活動がある。これは地域の方々も関わっている活動で、新施設になっても引き継ぎたい活動の一つ。

★特別支援教育に関連して、大人の方が学校施設（調理室や家庭科室）を利用している。これは50年以上続いている活動である。

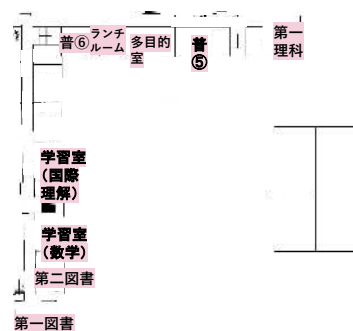
既存施設の現状（西巣鴨中学校）



1 階



2 階



3 階



4 階

R階

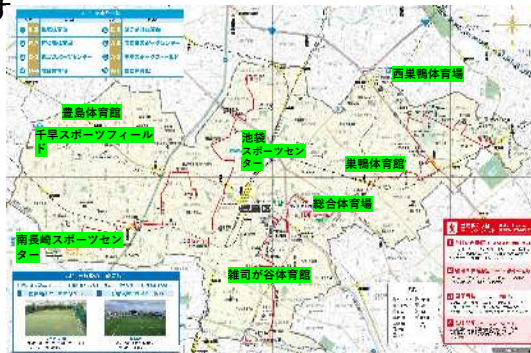
既存施設の現状（総合体育場）

■総合体育場

○豊島区では下記の運動場を開放しています。総合体育場は、野球場・弓射場・庭球場・体育室を区民向けに開放しています。
※今回の整備計画では、今後整備計画のある西巣鴨体育場に現存するアーチェリー場も一体で整備します

<豊島区 運動場>

総合体育場
豊島体育館
巣鴨体育館
雑司が谷体育館
西巣鴨体育場
池袋スポーツセンター
南長崎スポーツセンター
千早スポーツフィールド



①ビジョン（豊島区スポーツ推進計画2025-2034より）

スポーツでみんながつながり、笑顔あふれるまち としま

②豊島区のスポーツの定義・考え方

本区のスポーツの定義	NEW 本区のeスポーツの考え方
ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技性のスポーツだけでなく、健康づくりや介護予防のためのウォーキング、トレーニング、軽い体操をはじめ、意識的に行う日常生活の中の階段の昇り降りや散歩、サイクリング、レクリエーションなど、自発的に楽しむ運動をスポーツとして扱います。	スポーツの要素が高く、誰でも気軽に楽しめる身体活動を伴い、心身ともに健康の維持増進につながるものを豊島区のeスポーツとして捉えます。

本区の現状	本区の課題
- 人口密度が高い - 外国人の方々の増加 - 一人暮らしの高齢者が多い - 子どもの体力低下 - 学校部活動地域連携・地域移行	- 子どもの体力向上 - スポーツ観戦機会の充実や情報発信 - スポーツ実施環境の整備 - 身近なスポーツ施設の利用促進や充実 - 障害者でも楽しめるスポーツの促進 - 誰もが気軽にスポーツに親しむことができる機会の充実

④敷地情報

敷地面積	15,390㎡
延床面積	約7,000㎡
野球場面積	10,726㎡
保有施設	
1F	弓射場（和弓／アーチェリー）
2F	体育室
屋外	野球場（2面）／庭球場（4面）
※別途更衣室・シャワー室・トイレ・倉庫などあり	



総合体育場 体育室



総合体育場 弓射場



総合体育場 野球場



総合体育場 庭球場



西巣鴨体育場 弓射場

⑤インタビュー（2025年6月6日）

- 地域の方々にとっては地域の健康を維持する、無くてはならない施設。巣鴨・雑司が谷など広域から、バスや都電・自転車を使用してこられる方が多い。
- 地域の特性上、海外国籍の方の利用も多い。スポーツで、言葉や文化を越えて一体になれるという可能性も感じる。
- 各室の稼働率は、テニス・弓道は90%を越えている。野球場で70%ほど。
- 車椅子の方やベビーカーの方に対するバリアフリーデザインは約50年前の施設ということもあり、対応できていないと感じる部分。
- 駐車場については、野球場の入替時間帯の車の出し入れは現在繁雑になっており、学校と一体になることによる安全性の確保等が検討課題。
- ★現在は総合体育場といっても屋内は体育室のみであり、バレーボールやバスケットボールなどの問い合わせもあるがそのような大きな体育室はない。学校と一体的に整備することにより、「総合体育場」として、競技場やトレーニングルーム、ブルなどの設置に期待。
- ★子どもたちにとっても、一体的整備によって、スポーツイベントがより身近に感じてもらえることは可能性。豊島区はサッカーや野球などでプロチームによる指導イベントにも力を入れている。若いうちから身体を使う習慣をつけてほしい。

既存施設の現状（総合体育場）

